

研究・調査報告書

報告書番号	担当
488	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
A meta-analysis of alcohol intake and risk of bladder cancer. アルコール摂取と膀胱癌リスクに関するメタ分析	
執筆者	
Mao Q, Lin Y, Zheng X, Qin J, Yang K, Xie L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2010 Nov;21(11):1843-50.	
キーワード	
アルコール摂取、アルコール種別、膀胱癌、メタ分析	
要 旨	
目的： アルコール摂取量と膀胱癌リスクに関して矛盾する結果が疫学研究から報告されている。そこでコホート研究とケースコントロール研究のメタ分析を行い、アルコール摂取量と膀胱がんリスクとの関連を統合的に検証した。	
方法： コンピュータ検索および文献レビューにより対象となる研究を同定した。ランダム効果モデルを用いて抽出データを解析し、リスク推定の要約値を求めた。用量反応についてのメタ分析は、暴露レベルごとにカテゴリー化されたリスク推定値が報告されている研究を対象として実施した。	
結果： 19の研究が、メタ分析の基準を満たしていた。膀胱がんアルコール摂取との関連は全体（オッズ比 OR = 1.00、95%信頼区間 CI は 0.89 から 1.10）でも、性別、研究デザイン、地域、および喫煙状況のサブグループのいずれにおいても、観察されなかった。しかしながら、アルコール種別ごとの分析において、ビール（OR= 0.86、95%CI は 0.76 から 0.96）およびワイン（OR= 0.85、95%CI は 0.71 から 1.00）の消費量は、膀胱癌と負の用量反応関係を示した。	
結論： 全体的なアルコール摂取量と膀胱癌リスクとの関連がないことが、現在の研究からは示唆される。一方、ビールやワインの消費量は膀胱癌リスク低下と関連していた。これらの知見を確認し、生物学的メカニズムを明らかにするために、今後さらなる研究が必要である。	